

# 峰のひかり

発行人  
 社会福祉法人 七峰会  
 理事長 成田 梧朗  
 〒036-8356  
 青森県弘前市大字下白銀町21-8  
 電話 (0172) 33-8861  
 F A X (0172) 33-8862



## 2000年を迎えるにあたって



七峰会理事長  
成田 梧朗

県内社会福祉法人の中核として発展してきた当七峰会も、20世紀最後の節目の年を迎えた。この輝かしい年は介護保険、社会福祉基礎構造改革の実施という画期的な年である。今までの社会福祉の理念を抜本的に改革し、与えられる福祉から利用者が福祉サービスを自主的に選択できるといふ、いわば利用者とサービス提供者の対等な関係

を確立しようとするところにある。その理念は、国民一人ひとりが自らの生活を自らの責任で営むことを基本とし、自らの努力だけでは自立した生活を維持できない場合に社会連帯で支援することと同時に、人としての尊厳をもつて家庭や地域の中でその人らしい自立した生活が送れるよう支えていこうとするところにある。介護保険にしても構造改革にしても、この理念のもとに大きな変革をしようとしているものと理解すべきであろう。七峰会としては介護保険実施により「サンアップルホーム」が、在宅部門（ショートステイ、デイサービス、ホームヘルプ）ともども、4月1日を期して施行第一に適用される。

つまり現行の「措置」から利用者との「契約」に移行し、これを社会保険方式で実施するということである。また、山郷館も在宅サービス部門で介護保険が適用される予定となっている。保険料や介護報酬など不確定な点が多いが、4月から間違いなく実施される。これに対応し法人としても今までの考え方を抜本的に転換させ、一層積極的な活動を推進する決意である。

今年はまだ拓光園の全面改築の悲願達成の年にしたい。補助採択について県に対しさらに強くお願いするつもりであるが、関係者皆さんの深いご理解と絶大なご協力をお願い申し上げたい。20世紀から21世紀へのバトンタッチがスムーズに行われる年であることを願ひ、七峰会が社会的使命を達成できるように念じ、年頭のご挨拶とする次第である。

### 社会福祉法人 七峰会

特別養護老人ホーム

サンアップルホーム TEL 97-2111

サンアップル在宅介護支援センター

老人短期入所事業

サンアップルデイサービスセンター

ホームヘルプサービス事業

居宅介護支援事業者

サンアップル居宅介護支援センター

身体障害者療護施設

山郷館 TEL 97-2211

身体障害者短期入所事業

山郷館デイサービスセンター

居宅介護支援事業者

山郷館居宅介護支援センター

知的障害者更生施設

拓光園 TEL 96-2331

知的障害者短期入所事業

自活訓練事業

社会就労センター

旭光園 TEL 57-5155

通所相互利用事業

知的障害者通勤寮

編集 拓心館 TEL 82-4520

地域生活援助事業

生活自立訓練事業

地域生活者支援センター

勇心学園

### 拓光園

## よりよい作品づくりを目指して

岩木町五代早稲田に在る「アグリマーケット・四季彩館」で拓光園の利用者の皆さんの作った、農作物や陶芸作品を販売するようになったのは、一昨年の事です。

『四季彩館』は、津軽・岩木の特産物、農産物を農協より直接販売し、採れたての新鮮な野菜や果物を安く購入できるのが魅力となっています。また岩木町観光案内所も兼ねているところから、地元の方々のみならず、観光客やご来館される方々にも多く利用され好評を博しています。



拓光園では、利用者の皆さんの暮らしぶりを一般の方々にも少しでも理解してもらおうと、作業時間に作った品物をお買い上げいただいています。

陶芸班の作った陶器の花瓶や湯のみはその形、色合いが個性的で趣があると評判、腐葉土班の作ったなら・かしわ百パ一セントの腐葉土は、家庭菜園などの園芸作業に最適で価格も安いと売れ行き良好です。また、椎茸班の栽培した椎茸、なめこ、乾し椎茸は飛ぶような売れ行きであり、納品し店頭に並ぶと同時に先を争うようにして買い求めるお客様が多くに売り切れてしまう程です。

### 御下賜金が拓光園へ

—此の名譽を心のはげみに—

旧年12月28日、県庁知事室で木村知事から御下賜金の伝達がなされました。成田理事長と同伴した工藤園長は感激を新たに拝受いたしました。'99年の最後を飾る大きな名譽であります。

新しい年はこれをはげみによりよい施設活動が進められる力となる事が期待されています。

### 山郷館

山郷館から今年最初にお届けする話題は第3号で紹介した地域生活援助ハウスでの自立支援活動に関するものといえました。

## 地域生活にむけて ホップ、ステップ

山郷館では、自立生活支援を担当する職員がガイド役となり、地域生活の情報提供、自立生活支援団体の見学、地域生活を希望している方との話し合い等を積極的に進めています。昨年援助ハウスが完成したことで、在宅生活に向けての生活体験へと活動にはずみがついています。ここでは、主に日常生活動作を中心に、できるかぎり介助を受けずに入浴、排泄、更衣、食事等、自分の能力と最小限必要とされる介護サービスを職員の援助のもとに自らが選択していきます。



生活体験をしている利用者、工藤さんにお話を聞いてみました。

「私の場合は、地域生活に向けて、設備面の使い勝手が大切だと感じている。とくに蛇口など身近で頻繁に使うものは、使いにくいと気にかかるものなので、どのタイプでどの位置にあると自分にとって使いやすいのか考えている。食事は実際生活するときは弁当などが手軽で良いと思っているが、簡単な調理やガスの使用についても一人でできるようにしたいと思っている。手の震えがあるので心配な点だががんばりたい。」とのことです。

工藤さんは今回の体験をもとに、次の新しい生活に挑戦していきます。

援助ハウスでは、その方に合わせた在宅サービスを想定した体験内容を用意しております。建物が山郷館に隣接しているので、利用者の評判も上々のようです。



## ご厚意に感謝

旭光園

毎年、収穫の秋になると、地域の方々から数々のご厚意が寄せられます。

旭光園の利用者が、俳句の会で知り合いになられた山口タカさん(尾上町新屋町)から、南瓜を頂きました。高齢の山口さんが、健康のために自分の畑を耕し、そこで育てたものです。

当園と同じ町会の小林良司さん(尾上町八幡崎)からは、自信作のジャガイモ100<sup>kg</sup>、遠くは黒石市沖揚平の堀田明さんからは、新鮮な高原野菜の数々。また、猿賀神社より一年を通じて、心温まる果物やお餅を頂いております。旭光園の利用者、職員一同、ご厚意に深く感謝申し上げます。製品作りや地域交流により、微力ながら地域に貢献することで、皆様のご支援に应运り参りたいと思っております。これからも地域の方々との交流を大切にしていきたいと思っております。

ご注文お待ちしております!

・レジバック、「M」袋

・各種割り箸、ラベル印刷 他

『注文はごつちへいひいんく』

TEL 0172-57-5155

FAX 0172-57-5156

## 地域で暮らす知的障害者を応援します!! 『拓心館地域生活者支援センター』

通勤寮「拓心館」には、「知的障害者地域生活者支援センター」が設けられ、地域社会の中で単身で生活している知的障害者の方々のご相談に応じていろいろお手伝いをしています。

支援地域は、弘前市、黒石市を含む2市7町5村(人口35万人)です。支援センターには専門の支援ワーカーがいて、登録者の自宅や勤務している事業所の訪問を行い、それぞれのご相談に応じてい

ます。

地域生活者支援センターでは、平成11

年10月現在27名の知的障害者の方が登録しております。27名の方は弘前市内やその他の町村に民間アパートを借りたりしながら24名が生活し、また、弘前市や岩木町の自宅で3名の方がそれぞれ生活し、12か所の事業所に通勤しています。支援センターでは、利用されている方々に別表のような支援をしています。拓

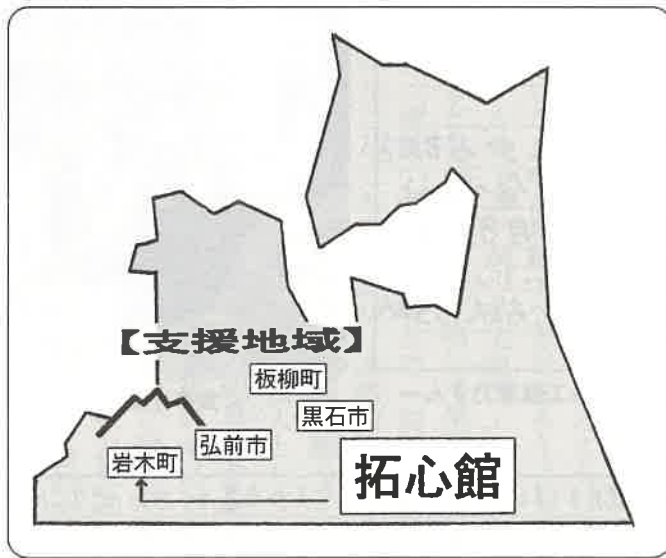
心館の職員も得ながら24時間対応しています。

地域生活者支援センターを利用するには、登録申請が必要です。お電話いただければ支援ワーカーが手続きを行います。登録や利用には費用は全くかかりませんので、お気軽にご相談下さい。

拓心館地域生活者支援センター

TEL 0172-82-5544

FAX 同右



(別表) 主な支援内容

内 容	具体的事例
・生活上の相談	・生活費についての助言
・職業生活に関する相談	・転職、仕事の内容についての悩みごと
・職場からの本人に関する相談	・職場での対人関係の調整等
・金銭に関する事	・低賃金、小遣いの使い方の助言
・衣食住	・衛生面、献立についての助言
・余暇活動	・他団体行事への参加、公民館活動の利用
・健康等日常生活上の配慮	・定期健康診断等への参加奨励
・近隣との人間関係 および親等との関係調整	・挨拶の励行、近所つきあいの助言
・緊急時の対応等の支援活動	・夜間、休日の病院の紹介、通院の付き添い
・他機関との連携	・職業安定所、福祉事務所、市役所役場等の相談及び届け出等の代行

### 「お知らせ」コーナー

〔指定居宅介護支援事業者の指定〕  
 青森県から指定居宅介護支援事業者として、特別養護老人ホームサンアップルホームは「サンアップル居宅介護支援センター」の事業所名で、身体障害者療護施設山郷館は「山郷館居宅介護支援センター」の事業所名で指定を受けております。  
 介護保険に関すること、在宅サービス、施設サービス等についてお気軽に御相談下さい。

### サンアップルホーム

### 弘前市立第五中学校生 施設体験学習を終えて

昨年の9月29日(水)、弘前市立第五中学校第2学年の生徒27名が、社会福祉施設ボランティア体験学習のため当ホームに來園してくれました。

体験学習では、利用されている方々の生活についての説明を聞いたあと、実際に車椅子操作を体験したり、自分の関節に重りのついたベルトを巻いて固定し、不自由感を知る障害者疑似体験と昼食の時間には、利用者の食事介助に参加しました。

後日、今回の体験を綴った冊子が送られてきましたので、その一部をご紹介します。  
 生徒の皆さんの「思いやりの心と相手の立場で考える心」が、将来の生活に役立ってくれることを期待しています。

はじめてこのいっしょに行くと、ドキドキした。  
 車イスなどの体験をしてみて、体が自由に動かなくなるとは、たいへんなんだなあと、改めて思った。  
 おと食事介助をして、たいへんだった。おばあちゃんが、おちんちみはらってくるのをこまめにしたら、職員の方が「自分で食べようとしてるんだよ。」とおしえてくれて、手をはなしてみたら自分で食べた。おばあちゃん、の気持ちおちんちみからなくて残念だった。  
 職員の人に言われたことを注意しながらおちんちみ、おばあちゃん、感動した。なんだが自分も感動してきた。

—工藤章乃さん—



＜食事介助＞



＜車椅子を体験＞

私は、障害者の体験をしました。ベストみたいなものを着て、右のポケットに重りみたいなものを入れて、足首、手首、ひじ、ふとももに何かがまいて戸所々に重りがついていました。歩いた時には、重くて歩きにくかったです。おじいちゃん、おばあちゃんもこのいっしょのなあと、思いました。  
 いすにすわっている時、こちうけんを見ているおじいちゃん、おばあちゃんたちに手をふったら、笑ったり、手をふったりしてくれました。  
 私は、重いすを洗ったり、お風呂場を見てみたかったです。  
 とても楽しかったです。

—吉田華恵さん—

### 七峰会後援会コーナー

### 20世紀最後の年が新しい 基盤のもとで!

後援会の皆さん、早いものであれ程の話題を呼んだ2000年の新しい年を迎え、いかがお過ごしですか。

平成11年の総会で今年度の事業計画として4つの目標を皆さんでお決めいただいたのですが、重点を「会員の増強」に焦点を絞って、法人の新企画である「広報紙・峰のひかり」にコーナーを設けていただいで隔月に情報をお伝えしたり、お願いをしたりということで、会の後援会組織を強めることに努力して参りました。

平成11年度でようやく会員組織の基盤ができるようです。いろいろとあつた事が時間をかけて解決して来たということだと考えます。

平成11年度内は無理でも、4月から実施になる「介護保険」に関連づけて、大変評判のよい活動をされているサンアップルホームへの訪問など出来ないものかと事務局で検討しています。

ご高齢の介護援助を必要とされておられる方はおられませんか。

後援会会員の方々には、法人本部に特別にお願いして格別のご配慮を頼みます。サンアップルホームへご一報下さい。